

「2次試験合格を実現するための必須スキルとは」

必須スキルとは、

- ◎ 問を変換するスキル・・・作業しやすくするために
根拠を探しやすく、解答を組み立てやすく、編集しやすく
- ◎ 整理するスキル・・・わかりにくいことをわかりやすくするために
視覚化、比較、つまり？と考える
- ◎ 処理を計画するスキル

☆問はだれでも変換している ⇒ 意識的に行うことが目標

例) 1次でも変換している。

〇〇の記述について、最も適切なものはどれか。

企業経営理論の最初のほう（戦略）なら？

変換後 ⇒ 選択肢の中の他の記述とくらべて最も妥当性を否定しにくいものを選べ。

経営情報システムなら？

変換後 ⇒ 他の選択肢と無関係に内容的に妥当なものを選べ。

2次の例

〔出題者が用意する問題要求〕 わかりやすい？何を探せばいい？何を答えればいい？

例) H24 事例Ⅰ 第2問（配点20点）

A社は、Y社の要請による海外進出を実現していないが、X社の要請に応じて、2002年に東南アジアの新興国S国に初めて生産拠点を設けている。

Y社の要請によるA社の海外進出が実現しなかったのはなぜか。X社の状況を考慮に入れて、考えられる理由を100字以内で答えよ。

★これはとても難しかった問題。多くの受験者がほとんど得点にならない解答を作成した。

典型的な×の解答

A社の状況を解答した(Y社への依存度がさらに高まり、経営上のリスクが増える・・・)

X社のことは何も解答しない。

問の変換

☆まず、正確に問の構造を理解するために、内容を視覚化し、整理する。

☆その際、視覚化も行いたい。さらに比較も。

X社の状況 ⇒ 海外進出実現する

Y社の状況 ⇒ 海外進出実現しない

☆続いて問の変換。

例)

海外進出が実現しなかった理由となる Y 社の状況を、実現した X 社の状況と対比して答えよ。X 社の状況は必ず示されている。

探すものをより明確にするためには？

まず、海外進出が実現することに関係する X 社の状況を探し、特定せよ。その X 社の状況と対比するかたちで、海外進出が実現しなかった Y 社の状況を類推せよ。

☆解答の組み立て

X 社の状況 ⇒ 海外進出実現する

X 社がすでに生産を開始している T 国でも、工場稼働に向けて・・・

問：これが海外進出実現の根拠になるのだとしたら？

T 国 X 社がまず進出。その後 A 社

S 国 T 国と同じだったら？

問：つまりどういうことか？

X 社はすでに海外進出し、受け入れ体制が整っていたから行きやすかった。

Y 社の状況 ⇒ 海外進出実現しない

「Y 社は海外進出していない状況で、A 社を誘った」ことを裏付ければよい。

☆☆過去問で問の変換のトレーニングをしよう！

【過去問の活かし方については、別のガイダンス「TACメソッドを実感！過去問題集の効果的な使い方」にてお話しします。】

事例Ⅳはどうか？

使い方は多少異なるが、問の変換、整理、計画は同様に重要。

☆特に「処理の計画」は重要。

例) H24 事例Ⅳ 第3問（設問1）

☆問の変換

「今年度の財務諸表をもとに企業価値を求めることになった。割引キャッシュフロー法を用いて、企業価値を求めよ」

「今後の株主資本コストを 5%、平均的な負債資本コストを 4%、税率は 40%、キャッシュフローは今年度の水準が将来にわたって継続するものと仮定する」

⇒ 営業利益ベースで税引後の CF を算出し、永続モデルで処理せよ。

⇒ WACC は、B/S から割合を算出して算出せよ。